NIE実践報告

1．タイトル：**記事の切り抜き感想課題から展示発表へ**

2．学校名

兵庫県立武庫荘総合高等学校

3．実践者名（代表者名）

川村道雄

4．学年

第１学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

300**名**

6．単元（本時の学習課題）名

新聞課題を展示発表へとつなげる

7．目標(狙い)

課題で選んだ記事を読み直し、仲間の感想を活かして模造紙に内容をまとめ、表現する力をつける。
互いの感想を読み合う過程で多様な考え方にふれ、自分の見方をひろげる。

8．評価の視点

紙面のバランスを考慮し、ある程度離れた所からでも読みやすい展示物を作ることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞課題年３回のうちの第３回。新聞委員会としての第３回目の活動(計６時間）。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①冬休みの課題（新聞切り抜きと４００字感想）の提出
②第１回新聞委員会（まとめる記事の選定とグループ分け）
③第２回新聞委員会（感想の読み合い、伝えたい内容の検討）
④本時（第３回新聞委員会）模造紙の下書き、紙面作り、完成。「産業社会と人間」の２時間を使って、総合学科発表会の展示発表作品を１６名全員の協力のもと作り上げる。

留意点
・４グループ（４つの記事）共通のテーマ「絆」を設定し、有機的なつながりが生まれるよう工夫する。
・感想は雲形の色画用紙に書いて貼り付けるなど、見た目を意識した作品になるよう工夫する。
・新聞記事を中心に、できるだけ多くの生徒の意見をとりあげ、多角的な見方を紹介できるよう工夫する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

模造紙書きが始まると生徒は熱が入り、ポスカを使って楽しみながら作成する過程で、自分たちが選んだ記事にますます愛着を感じていたようだ。当日も中学生や在校生が目を止めて熱心に読む光景が見受けられた。

12．成果と課題

生徒が選んだ記事と感想は、これまでも「まなび支援室だより」で印刷配布してはいたが、今回、複数の生徒の目で再度見直すことで、記事の持つ力をさらに引き出すことができたと考えている。また、別々の記事をあるテーマのもとで再構成することで、見過ごしていた部分に目を向けることもできた。一度提出した感想を生徒に返して考えさせる機会を、ＬＨＲで全生徒対象に企画することが今後の課題である。